

抱へてゐるが、その運転手は一流の機械工でもあり、電気技師でもある。また、自分のミシンで主人のシャツを縫つたり、とてもスマートなカーキ色の訓練服を縫つたりすることも出来る。土の上に坐つて、手で機械を動かしながら、足の指で材料を引きよせるのである。その運転手が、わづか半日で洋服を仕立てた話を私は聞いてゐる。そしてその仕事ですんで数日たつと、コンクリートの床をつけたり、排水の方法を講じたりなどして、ピリク（竹で板のやうに編んだもの）で作つた厩の最後の仕上げをしてゐるといふ状態である。

普通のジャワの百姓は、専門の博物學者といつていゝ。鳥や獸の習性や植物について尋ねると、彼等は例外なく知識の寶庫であることが分る。このことは、私のやうに濠洲からはじめてジャワに渡つた者には一層強い感銘を與へる。濠洲の田舎者に鳥の名を聞くと、十種のうち九種までが雀だといふし、また植物の名にしても、小麥や燕麥や玉蜀黍などのやうに直ぐ見分けがつくものや、毒草として知られてゐるもの、他は、恰も棄兒のやうに名前がわからないのである。これに反してジャワ人は、密林の動植物の名前を一つ／＼知つてゐるのみならず、もし熱心に聞耳でも立てやうものなら、それらに關するいろ／＼の不思議なお伽噺

さへ話して聞かしてくれぬ。そのうちに胡桃でも目の前に落ちてくると、矢庭に話題をかへて、それをどうすれば染料がとれるかといふ説明をはじめぬ。また、いまに蝙蝠か鳥か甲蟲か出てくるから見ててくれといふ場合には、たとへ、それがどんな時間であらうと、またどんな場所であらうと、きつと一分間の違ひもなく現れてくるのである。まるで住民が鳥や虫のために時間表をつくつてゐて、その時間表通りに鳥や虫が動いてゐるかのやうな氣がする。

ジャワ人の最も面白い特性の一つは、無邪氣な虛榮心である。彼等はとりわけ寫眞を寫して貰ふのが好きだ。しかし品のいゝ寫眞を撮つてやることは並大抵の苦心ではない。男のポートレートを寫さうとすると、まづ最初に女房や家族の者たちを連れだしてくる。そして撮影のためには、どんな便宜でも計つてくれる。しかし一旦寫してしまふと、社交界の美人のやうに口やかましく批評するのである。もし顔の影や鼻のハイライトが氣に喰はないと、寫しかへてくれといつて承知しない。しかし、そのために餘計な金を使つても、これは投資と考へていゝ性質のものであつて、彼等の好意といふ素晴らしい報酬が得られるのだから無駄

はないと思ふ。

しかし私はたゞ一度だけ例外に出合はしたことがある。それはジャワの中部地方にある茶畑での事件であつた。といふのは、一人のよぼ／＼になつた婆さんが、大きな茶の木の下で、かついでやつて來たので、一通りの挨拶をすましてから、寫眞をとらして貰ひたいと頼んだのである。勿論、例によつて直ぐ承知してくれるものと豫想してゐた。實際、豫想通り承知してはくれたものゝ、條件がついてゐた。「ようござんすとも、ポトリートを寫すくらのことなら、しかし、五十セント頂くといふ條件で」しかし、私はそのとき、寫眞の權利を買ふ積りではなかつたのだ。だから婆さんは獨りでぶつ／＼怒りながら立ち去つてしまつたが、私とその後姿の素晴らしい寫眞をとつたことには御當人は少しも氣がつかなかつた。しかもその後姿に婆さんの魅力が最もよく現れてゐたのである。(たしかに美貌の持主ではなかつたから)こんなわけで、私はあまり腹も立たなかつた。

ジャワの住民は熱心なシネマ・ファンである。それは恐らく邊鄙な田舎の村にまでもポスターを掲げたり、人氣俳優の色つばい手柄話を書いたリーフレットを何千枚も街に配布した

りするためであらう』

ジャワは禮儀の正しい國民である。

日本人の家に雇はれてゐる朋輩を訪ねて彼等は時々やつて來るが、表の門まで來ると履物をぬいで、素足で入つて來る。日本人の家に下駄ばきでから／＼入るやうなことはない。朋輩に會つても、日本の婦人が何度も何度もお辭儀をして挨拶するやうに、長い間、互に挨拶を交してゐる。ジャワ人は又草花を愛するゆかしい人種である。何處に行つても自然の温室の中で廣い花畑が赤、紫、桃色など思ひ思ひの濃厚な色を見せてゐる。

彼等は單純で、信じ易く、世間知らずだから、支那人の商人などには容易に騙される。併し、かうと思つたらなか／＼執念深く、熱心である。やさしくて何處かに氣品があるところがわれ／＼に親しみを抱かせるが、何しろ、抑壓され、貧困化されてゐるので、するくて、惡賢いところもある。見榮坊で、おしやれで、外交上手で、おしやべりであるが、厭きつぽくて、氣に入らないと直ぐに暇を呉れといふ。田舎に歸つて自分の都會における生活に就て充分法螺を吹いて、持ち金がなくなると、當然の權利であるかのやうに、手土産などもつて

戻つて来る。

インドネシア人は熱心な回教徒である。熱心な回教徒といふより、熱心な信心家である。東洋的な萬有精神論者であり、迷信やタブーや魔術の類も多い。學校で教はる教科書はコーランであるともみえて、子供達は大聲でコーランを誦誦してゐる。どうもその意味が解つてゐるのではなさうだ。

雨の降る眞夜の食攝り斷食期

ハリラヤの庭の灯や蝶々椰子

斷食祭いろあらたなる衣器

(友人小津さちを君の俳句集より)

(六) 安南人の印象

安南人の印象を書かうとすると常に二つの面のあることを感じる。華奢で繊細で安南特有のスマートな服を着た上流階級の美しさと、褐色の襤褸に等しい衣服を纏つた苦力階級の逞

ましさとである。非常に高度の文化生活を送つてをるものと、極度に貧困な生活を送つてゐるもの、無氣力で怠惰で、獨立運動の熱意など何處にあるかと思はれるにも拘らず、數次に亘る猛烈なる獨立運動に佛蘭西を惱ましたことがある。小心で、親切である反面、一寸油斷をすると、すぐ盗みや掏摸をやる。

ドゥレルの「貿易風の佛印」には安南インテリの問題が次のやうに述べられてゐる。

『フランスの政治が、この國の青少年にヨーロッパ的な教育を授けるために、大なる努力を致してゐることは、吾々の大きな誇りである。』

河内^{ハノイ}には、いづれの點を較べてみても、フランスに於ける最も優秀な大學にも決して劣るところのない立派な大學もあれば、法律専修學校、醫學專門學校もあり、さらに又、この國での課程を終つて後、フランス本國への留學を希望する者たちのためには、惜しみなくそれぞれの便宜が興へられてゐる。

右の點までは萬事が都合よく運ぶ。もつとも、古き世代と新しき教育を受けた世代と、この二つの世代の乖離は如何とも爲し難いのであるが――。

ところが、その後がいけないのだ。新しい教育を受けた者たちが、身につけたその知識を生活のために役立てようとするとなんに、萬事が面白くなつてくるのだ。

即ち、そこには二つの大きな障壁があるのである。

まづ最初に、古い「大官的」な意識——殆んどすべての安南人家庭の中に未だに餘喘を保つてゐる古い「大官的」な意識がそれである。

大學の卒業證書を持つてゐる者は、名譽と實利とを兼ねそなへた一つの地位に——一言でいへば、官途に就くの權利を、絶對的な權利を有してゐるのである。

即ち、この國では、卒業證書は單なる一個の資格ではなくして、それは採用されるといふことを前提としてゐる。

したがつて、大學は一つの手段ではなくして、それは一つの目的なのである。

純粹に精神的な事柄は一般に輕視されてをり、「大學とは、必ずしも、目前の生活の利害のために設けられてあるものではない」といふ考へ方は殆んど行はれてゐない。

右の様な次第だから、毎年、顔の黄色い一群の若い知識人たちは、まるでそれが當然の權

利でもあるかのやうに、官途への扉を叩くのである。

しかし、叩いた扉が開かれるとは必ずしも限らず、したがつて、不平不満を抱く者たちがどうしても生じてくる。

その上——さらに悪いことには——彼らの他に第二流の知識人とでも呼ぶべき一群の者たちがある。例へば、安南人技術者——彼らがヨーロッパ人の技術者と全く同じ仕事に携はつてゐる場合にも、その受ける報酬は白人の三分の一、どんなに恵まれてゐても白人同僚の二分の一どまりである。

安南人醫者、或は辯護士についても全く同じことが云へる。土着民の診察だけにかぎつて許可されてゐる醫者、とるにも足らぬ訴訟だけを取り扱つてゐる辯護士——都合のよいことには、この國の住民は云はゞ訴訟狂のやうなものであるから、この種の訴訟は日々その跡を絶たない——しかし、それらの醫者や辯護士の受ける報酬は、僅かに饑餓を免れる程度である。

問題は單に物質的な面だけに止まらず、考へ様では更に一段と重大な面がある。即ち安

南人知識人の社会的な地位の問題がこれである。彼らと、彼らよりも一段と教養の低い白人との間の問題がこれである。成上り者らしい一人の軍人が——少し前までは「軍曹さん」だつたらしい——安南人の醫者を理不盡に罵倒してゐる光景を、この自分は親しく目撃したのだ。

この國の現在の政治機構を、その根底から破壊することを夢みてゐる一部の者たちが、虎視眈々として、その機を覗つてゐることも全く理由のないことではない——と云はねばならぬだらう。

彼らの望んでゐるやうな全面的破壊の後に來るものは果して如何なるものであるか？ そこに現れてくるものが、現在のそれよりもさらに幸福な、立派な政治であるか？

或は、現在のフランスの統治よりもさらに窮屈なものであるか？……

印度支那は、いまや大きな運命の前に立つてゐると云はねばならぬ。

安南人の殆んど全部が農民である。特に零細農民が多く、人口稠密なトンキン・デルタの零細農民は社會問題となつてゐる。これが安南人の性格に著しく反映してゐることはいふま

でもない。何故にトンキンに人口が多く、零細になつてゐるか、色々研究されてゐる。ジャワも人口は多いが、トンキンはジャワのやうに氣候がいゝわけではない。これは全く安南人の社會制度から來てゐる。大家族制相續の方法、榮養の不良、貧困など悉くが新地開拓の意氣を喪失せしめてゐる。

十町平方に千人の平均で農民が住んでゐるところは珍しくない。都會ではなく、水田の中で百姓をして生きてゐるのである。この中には林もあれば、道もあり、川もあるのである。

瘠せこけて弱々しく、泥田に膝まで没して稻の苗を抱へたり、腰までつけて魚をあさつてゐる百姓の顔は銅のやうに無表情であり、衣服も、背のつゞらも皆んな泥と見分けがつかない。男も女も特有の三角な笠をかぶつて、働いても働いても報いられない勞働を續けてゐる勞働にせいが出せる筈がない。彼等をまつてゐる運命は飢と性惡な債權者のみである。而もこのトンキンの不毛な平野に、年々十萬の新たな空腹者が増大してゐるのである。逸見重雄氏の「佛領・印度支那研究」によれば『小作人及び分益小作人は小土地所有者よりも一層悲惨で、彼等は貧困のどん底に於て生活してゐる。收穫が良好の際でも、收穫したものゝ大

部分は彼等の手には残らない。彼等は借金のために地主や高利貸に緊縛されて、この悲惨な境遇から脱れ出る術を知らない。一人の小作人が安易な生活を得るためには、少くとも五モウの土地を耕作し、彼自身の所有たる一疋の水牛と運轉資本とを必要とする。然らざれば、彼は農奴に等しいものである。

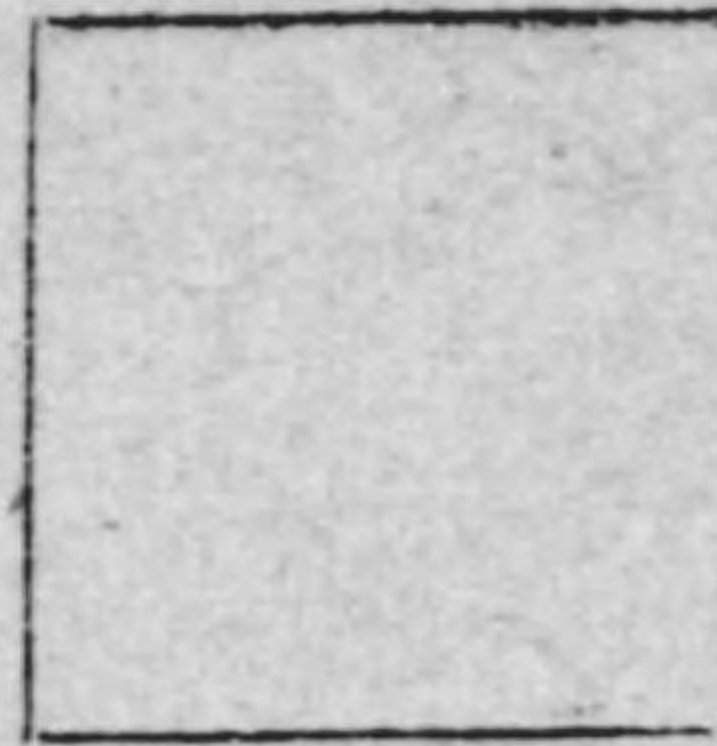
これらの小作人、分益小作人及び農業労働者の数はどの位あるか？ この数字は分らないけれども、デルタの總農民、六、五〇〇、〇〇〇人中、有職人口は五五%と推定されるから、それによつて計算すれば、有職總人口は三、五七五、〇〇〇人、其中から前記の土地所有者總數九五〇、〇五〇人を差引けば二、六二五、〇五〇人が、これ等の範疇の農民によつて占められてゐることになる。これは土地所有者總數の約二倍半餘に當つてゐる。けれどもデルタにあつては、前記の如く土地所有者の壓倒的多數は零細土地所有者、小土地所有者及び中土地所有者であつて、彼等は自作兼小作人であると共に、耕作の季節的必要に應じては、農業労働者の雇傭すら必要としてゐる農民であるから、地主對小作人又は分益小作人の關係はそれ程重要性を持たず、生産の基礎は、これらの小作乃至貧農の上に置かれ、農業労働者數は相

當の數に上るものと推定される。この農業労働者は勿論近代的意味の農業労働者ではなく、右小農の豫備軍として日傭、月傭又は年傭として小農經濟に従屬し、季節の變動に従つて、村から村へと渡り歩く一種の失業者群であるとも想像される。』

かくて、生活のできなくなつた農奴達は、その故郷を離れることに不安と恐怖にかられながらも、少數づつと生活を求めて旅立たねばならない。自然の災害と屢々の飢饉と、生活の根據の薄弱なために小心翼翼となつた彼等が、まるで家畜のむれのやうに、ジャンクなどに乗つて移住してゐるのを見かける。百人ばかりが、互に身をくつゝけて、古い鑄鐵のやうな色の檻樓を纏つて黙々と行手を見つめてゐる姿は悲惨を通り過ぎてゐる。

安南人も東洋的萬有精神論といふか、多神主義者である。佛教あり、道教あり、自然神あり、日本で有名な高台教があり、何でも拜むのである。恐らく理窟を言はず、何でも拜むのが本當の信仰だらう。彼等は非常に熱心な信神家であり、宗教的生活は彼等の日常生活中最も大きな役割を果してゐる。

出文協承認
あ360071號



昭和十八年一月十日 初版印刷
昭和十八年一月十五日 初版發行

(五〇〇〇部)

熱 帯

● 定價圓六拾錢

著 者 景山哲夫

東京市芝區琴平町二番地

發行者 宗高松太郎

東京市京橋區銀座西一丁目七番地

印刷者 福神和三

東京市神田區渡路町二丁目九番地

配給元 日本出版配給株式會社

東京市芝區琴平町二虎ノ門會館

發行所 日本講演協會

電話芝(43)二二二一

振替東京七三三四〇番
會員番號一二二五六九

末廣一雄著 **濠洲印度探檢誌** 價B 判三五〇頁
五十年前の濠洲印度と今日の濠洲印度とが一目瞭然と比較され興味津々！ 而も著者は現在なほ存命中、他に絶對比類なき珍書奇書の再出現である。而もその識見の先驅的たる洵に驚異だ！

橋本貞夫著 **大東亞巡察考** 價B 判二六〇頁
著者が數十年間に亘る實地踏査の結書であると共に東亞共榮圈に關する限り絶對確信ある觀察記である。殊に純農業地建設案、他日獨立國援助政策等々その高邁なる意見は必讀に價する！

山本初太郎著 **戰地同胞敢闘記** 價B 判二六〇頁
監禁拉致されし戰地同胞の血みどろな手記體験談より毅然たる日本精神を摘出銘記した。銃後唯一の修養書！ 必讀扼腕奮起！ 何人も膽を寒からしめざるはなく、又激昂せざるなし！

山本初太郎著 **嗚呼軍神九柱** 價B 判三二〇頁
陸軍大將松井石根閣下曰く「青年子女の好經典たるのみならず子を持つ親人の貴重なる書、感激の至り、廣く世上に流布されんことを祈る云々、その他知名有志絶讚推薦、一讀感奮興起！

中目尙義 啓共編 **日馬英會話** 價B 判二三〇頁
大竹 啓共編 **日馬英會話** 價B 判二二〇頁

東亞の大團結は言葉の了解から！ 見よ、澎湃たる現住民族の日本語研究熱を！ 南方に志す人人の熾烈なマレ！ 語研究熱を！ 本書は此熱望に應へて編まれた新會話篇！

本日講演協會版



54E
243

¥ 1.60